



# 多摩川を歩く～日野・八王子編～

## ①宝泉寺

元徳年間（1330年頃）の創立。境内には新撰組隊士「井上源三郎」の記念碑と墓があります。

## ②レンガ橋

中央線の前身である甲武鉄道が明治37年に開通した当時から使われています。このレンガは日野にあったレンガ工場で焼かれたものです。多摩川鉄橋の橋桁にも使われています。

## ③加賀塚

日野用水が開削されたころ、このあたりの実力者の一人に竹間加賀入道という人がいました。加賀塚があった場所にはその屋敷があり、天正18年（1590）2月に竹間加賀入道はここで自害したと伝えられています。加賀塚は墓ともいわれ、日野市文化財に指定されています。

## ④日野宮神社

創立年代はよく判っていません。武蔵七党の中の西党の祖日奉宗頼が武蔵国の国司となり、その孫西内大夫宗忠が西党の始祖となって、その子孫が祖神を祀って日野宮権現と称したといわれています。この神社付近では「鰻は食べてはいけない」という伝承があります。昔、多摩川が洪水になった時に、壊れかけた堤防の穴にたくさんの鰻が入り込んだため堤防の決壊が免れ、村が洪水から救われたという一説からです。

## ⑤日野用水

日野市域は、江戸時代に多摩川と浅川から引かれた農業用水路が市内を網の目のように流れ、崖線からの湧水群が現存する大変水に恵まれた地域です。このような特徴を生かした街づくりを進めていることが評価されて国土交通省選定の「水の郷百選」にも選ばれています。

## ⑥CCTV (ClosedCircuitTelevision)

CVTVカメラで、河川の水量や水位、河川管理施設の状況を24時間リアルタイムで把握できます。カメラが映し出した映像は京浜河川事務所へと集められ、その後光ファイバネットワークにより、管内の自治体等へ送信されます。情報はインターネットでも配信され洪水時や災害の発生時でも、地域住民に情報を提供できます。平成20年度末時点で多摩川には左岸側に63、右岸側に51合計114台設置されています。

## ⑦たちかわ水辺の楽校

「水辺の楽校」は、「水辺で学ぶ学校」です。学校といっても校舎や教室はありません。「川」そのものが教室であり、先生です。川遊びをしたり、生きものや植物などを観察したりしながら、机の上では学べない色々なことを学びます。「学ぶ」というと勉強みたいですが、「楽しむ」ことを大切にしているので、「楽校」です。



## ⑧距離標

河口からの位置を知ることができるキロ枕です。河口原点から1kmごとの両岸に設置されています。

## ⑨生態系保持空間

～貴重な生態系を保ち、自然を守るスペース～  
学職経験者など専門家による生態学的な観点から、動物や植物などの生息・生育地として特に保全する必要があると認められた区域です。このため、必要に応じて河川生態学術研究地区（福生市永田地区）のように、本来の生態系の回復を目指します。

## ⑩成就院

天台宗の寺院で円通寺（八王子市高月町）の末。本尊は阿弥陀如来坐像。日奉氏の衰退によって東光寺と共に久しく廃絶していたものを、その跡地に天正16年（1588）、僧永海が中興建立させたので永海をもって中興開山としています。現在の堂宇は寛政6年（1794）に建立されたものです。成就院の境内に建つ薬師堂は「安産薬師」とも呼ばれています。

## ⑪石橋碑

東光寺大坂下には石橋碑と大坂碑があります。ここから見える杉の木がある場所は、成就院に移築される前の東光寺薬師堂がありました。石橋碑上流で日野用水は2本に分かれています。成就院方面へ向かう用水が「日野下堰用水」もう一方が「日野上堰用水」と呼ばれています。

## ⑫谷地川浄化施設

谷地川浄化施設は、多摩川の水質浄化を目的に、多摩川合流地点に建設された河川内浄化施設です（平成5年完成）。

## ⑬谷地川

新旭橋の下を流れるのは谷地（やじ）川です。河川改修が行われ現在のような直線の川となりました。旧谷地川は石川堰の場所を流れていました。新旭橋と平行して日野用水も橋で川を渡っています。このあたり、ためぎやハクビシンが出没するそうです。

## ⑭お茶屋の松

日野用水に沿った道は「東光寺道」とも「拝島道」とも呼ばれていました。用水を掘削した時に造られた道ともいわれる古い道です。現在は工場の敷地に細い松が植えられていますが、ここには、昭和40年代まで「お茶屋の松」という黒松の大木がありました。

## ⑮石川堰跡

この堰から用水の余水が落とされている流路は旧谷地川の川筋を利用した谷地川用水です。川岸には「日野用水改修記念碑」が立ち、旧谷地川跡上流方面は遊歩道として整備され、現在の谷地川へと続いています。